

[概要]

従来農山村の過疎化が問題視されていた。なかでも地方都市近郊の農山村はモータリゼーションが進み本稿では富山市山田地域の農業の変遷をたどり、地方都市近郊の農村の今後の在り方について検討する。農業人口や農作物の作付の変化などを各種資料から読み取り分析したのちに、農業を担う者の一つの視点として、近年登場した農産物の加工組合に聞き取り調査を行った。その結果、約10年ごとに転作のために新たな作物への着手が見られた。また、地域活性化を図って農産物加工組合が作られた。加工組合は、高齢化に伴う農業従事者の減少を危惧し、特産物としての加工品が地域内外に農業の魅力を伝えるものとしてとらえられているということがわかった。農業人口の高齢化を食い止めるのはそう簡単ではない。しかし、高齢化マイナスにとらえるのではなく、農業の引退後に加工に従事できると考え実践していくことで、生きがい創出や地域の魅力作りに貢献でできるのではないかと考える。